

フォーラム

海外渡航制限中の「看護英語実践」代替授業の工夫：学内での国際看護実習科目の実践



牧野 耕次, 生田 宴里, 松井 宏樹, 千葉 陽子
滋賀県立大学人間看護学部

要旨 2023年3月「看護英語実践」の代替授業をオンラインと対面を併せたハイブリッド形式で開催した。内容は「ナレースワン大学看護学部学生との英語でのオンライン交流」「在留外国人によるプレゼンテーション」「英語圏での留学経験のある卒業生によるプレゼンテーション」であった。参加した学生にとって、今回の授業は海外の医療や教育システム、異文化などの理解および英語力向上の有意義な機会となった。看護職はあらゆる人々を対象とするため、国籍や文化などその多様な背景を理解することが求められる。今回のような国際交流はその上で非常に重要な役割を持っていると考えられる。さらに、研究論文からだけでなく、実践においても視野を広げ新しい知見を得ることは看護にとって欠かせないことである。そのため、今回のような授業は、学生時代から国際交流の基礎を学べるという点においても、重要な役割を持っており継続していく必要がある。

キーワード ナレースワン大学, 国際交流, タイ

I. はじめに

滋賀県立大学人間看護学部においては、2018年度以来「看護英語実践」という海外研修を伴う選択科目を毎年3月に開講していたが、COVID-19パンデミックにより2020年度と2021年度の研修は中止を余儀なくされていた。しかし、このような中でも海外志向をもつ学生は一定数存在していた。そこで、2023年3月「看護英語実践」の代替授業をオンラインと対面を併せたハイブリッド形式で開催した。本稿ではその実践について報告する。

II. 「看護英語実践」の概要

本科目は、全学年の講義や実習がすべて終了した3月上旬に開講される全学年を対象とした専門選択科目であり、到達目標として以下の3点を挙げている。

- ・海外の医療や看護学教育システムを学ぶ。
- ・異文化理解を深める。
- ・英語力能力を向上させる。

2018年度(2019年3月)はアメリカ、2019年度(2020年3月)はオーストラリアにおいて、各国のヘルスケアシステムに関する講義の受講、医療・福祉関連施設の訪問、医療関係者や看護学生との交流などを行い、学生たちは異文化理解や英語でのコミュニケーション能力の向

上に努め、大きな学びを得ていた。

III. 代替授業の実施

2022年11月初旬から2023年8月末までの10カ月間、本研究科ではタイ王国(以下、タイ)の国費奨学金を受けたナレースワン大学の博士後期課程の学生を研究生として受け入れた。これをきっかけに、ナレースワン大学看護学部の学生との英語でのオンライン交流を柱とし、看護や医療に関する国際的な学びが得られるプログラムを組み立てた。これと同時に、学生には代替授業実施の

Ingenuity of the alternative class on “Nursing English Practice” during the restricted period of overseas travel from Japan : implementation of international nursing practicum on campus in Japan

Koji Makino, Eri Ikuta, Hiroki Matsui, Yoko Chiba

School of Human Nursing, The University of Shiga Prefecture

2023年9月30日受付, 2024年1月22日受理

連絡先: 牧野 耕次

滋賀県立大学人間看護学部

住所: 滋賀県彦根市八坂町2500

電話: 0749-28-8637

F A X: 0749-28-9506

e-mail: makino@nurse.usp.ac.jp

可能性を周知し、参加意向のアンケートを取ることを通して、国際的交流に関心のある学生の確保にも努めていた。

2022年度「看護英語実践」の代替授業は、2023年3月8日から3月10日までの3日間（90分×15コマ）に実施した。代替授業の構成は以下の通りであった。

- ・ナレースワン大学看護学部学生との英語でのオンライン交流
- ・在留外国人によるプレゼンテーション
- ・英語圏での留学経験のある卒業生によるプレゼンテーション

タイからの研究生は、本学の学生という立場でナレースワン大学とのオンライン交流に参加し、適宜タイ語・日本語・英語での通訳を務めるとともに、自身の外国（日本）での留学体験を英語でスピーチするなどのかたちで、全面的に本授業に協力した。参加者は、英語や海外に対する関心が高い2年生3名、3年生3名の計6名であった。

プログラムは、1日目がオリエンテーションおよび各大学の紹介、参加者の自己紹介、両国看護学生間の質疑応答、医療用語を当てる描写クイズ（scribble）などであった。自己紹介では、全参加者の氏名をアルファベットとタイ語で記載した名札を用い、緊張しながらも自分で作成したスライドを用いて英語で自己紹介ができていた。一方、ナレースワン大学の看護学生は自由参加の交流会であり、日本に対して好意的で、自由に笑顔で自己紹介をしていた。本学の学生はタイ側の学生の明るく楽しそうな雰囲気により緊張感がやわらぎリラックスすることができていた。

2日目には、ナレースワン大学の教員が作成した英語による動画の視聴によって、タイのヘルスケアシステムと看護教育について学ぶ機会を得た。また本大学の教員も、日本のヘルスケアシステムや看護教育の概要についてタイおよび日本の学生向けに英語でのプレゼンテーションを行った。各発表の後には質疑応答の時間を設け、両国の違いや共通点などについて様々な意見交換が行われた。

2日目には、在留外国人による母国の医療制度の概要と日本での医療機関体験などのエピソードの発表を英語で聴講する機会を設けた。スピーカーは、以下の4名であった。

- ・カナダ出身の滋賀県国際交流員（母語は仏語）
- ・タイ出身の本学部研究生（母語はタイ語）
- ・アメリカ出身の本学全学共通機構講師（母語は米語）
- ・イギリス出身の本学人間文化学部准教授（母語は英語）

最終日には、英語圏での留学経験がある2名の卒業生の体験談を聴講した。アメリカの留学経験がある卒業生は、日本での看護師としての臨床経験を経た後、現在は海外とのつながりもある一般企業で看護師であることを

活かして病院ホームページを作成・管理していた。もう1人の卒業生は、小児看護のスペシャリストを目指して文部科学省の奨学金（トビタテ！留学JAPAN）を獲得したものの、COVID-19パンデミックによって奨学金による留学を断念せざるを得なかったが、その後諦めずに私費でのカナダ留学を経験し、現在は日本の医療機関で看護師として勤務していた。

ナレースワン大学との交流では、「英語が第一言語ではないからこそ、工夫して相手に伝えようとするし、相手の言わんとしていることを汲み取ろうという意識が向き、コミュニケーションが成立した」「英語はお互い母語が異なる者同士、コミュニケーションをとることが出来る非常に便利なツールである」「異なる文化や環境で生活する人との交流は自分の知らないことを知ることができて視野が広がる」などの感想が寄せられた。

在留外国人によるプレゼンテーションからは、「シンプルな英語で正確に内容を伝えることが出来る能力が重要」「外国人という理由で態度を変えるのではなく、個人対個人としてコミュニケーションをとる必要がある」「海外のヘルスケアシステムが日本と異なるという知識があれば看護師の外国人患者の理解につながる」などという声が聞かれ、国内における在留外国人への医療や看護について多くの気付きを得られていた。

海外活動経験のある卒業生のスピーチに対しては、「将来的には国外に出て看護師として働いてみたいという願望があるため興味深かった。海外では日本では学べないことや経験できないことが多くあるため、新たな学びを得るために海外へ行くということは非常に有意義である」「国際的な生活や職業、言語に関心を持っていたにもかかわらず、卒業後は病院で働くべきであるという固定観念を抱き、自分の視野や可能性を狭めていたということに気づいた」「諦めていたが自身の目指す専門性が見えてきたら留学してみたいと思うようになった」などの声がきかれた。

IV. 終わりに

今回、学生らが持つチャレンジ精神とナレースワン大学の担当教員のあたたかな励まし、同学生たちの笑顔と明るさ、楽しむことを第一優先にした両大学協働の準備などにより、学生たちは楽しみながら英語を話し、その目標を達成することができた。年齢の近い卒業生の行動力、苦勞しながらも成長し社会人になって活躍している姿を間近にみてかわることで、彼女たちをロールモデルとして目的意識を強化し、自分たちの可能性にも気づくきっかけになったと考えられる。看護職はあらゆる人々を対象とするため、その国籍や文化などの多様性を

理解することが求められる。対象の背景を理解する上においても、国際的な視野を広げ英語をそのツールとして意識する機会となった今回のような授業は、学生時代から国際交流の基礎を学べるという点においても、重要な役割がある。

今回、協働したナレースワン大学との関係から、COVID-19 パンデミックあけの「看護英語実践」の研修先や学部間提携などに繋げ、互恵的に教育だけでなく研究においても発展させいきたい。

謝 辞

本授業の企画・運営にご協力くださいました全ての方々、またナレースワン大学看護学部の教員・学生の皆様、スピーカーとして登壇してくださいました皆様に心より感謝申し上げます。